

葉山町の多様な主体が連携した 海の森づくり活動

2023年度申請 参考資料

葉山アマモ協議会

葉山町漁業協同組合

葉山町立一色小学校

ダイビングショップナナ

鹿島建設（株）葉山水域環境実験場

葉山町の多様な主体が連携した海の森づくり活動

葉山アマモ協議会（葉山町漁業協同組合・葉山町立一色小学校・ダイビングショップナナ・鹿島建設（株））

プロジェクトの概要

葉山海域では、ここ数年間で藻場の衰退が急速に進行しました。葉山町では、地域連携による積極的な藻場再生活動を通じ、教育、地域経済、脱炭素へつながる取り組みを実践しています。

対 象

ワカメ場、カジメ場、ヒジキ、海藻養殖

特徴・アピールポイント

- ✓ 海藻を殖やす新技術を導入しています！
- ✓ 養殖による新たなブルーカーボンの創出！
- ✓ 学校を核とした教育、朝市など経済効果も！

ブルカーボン
循環効果！



葉山モデルの構築

漁協

多様な主体が連携
葉山モデル

企業

学校

ダイバー



藻場モニタリングシステム

深場の藻場まで効率よく調査できる手法

ALB航空機搭載型グリーンレーザ測深

水深約15mまでの海底マップ作成

※ナローマルチビームとの検証実施

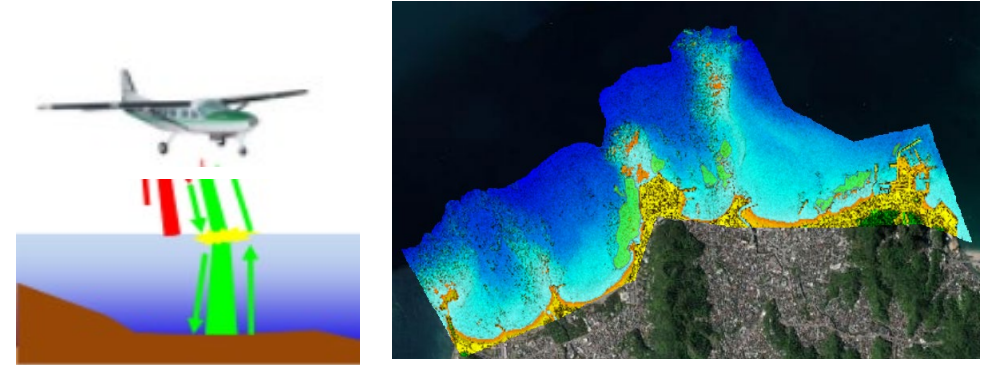


GIS、水中カメラを用いた現地調査
海藻種類・分布エリア・被度の把握



詳細な調査（潜水）

被度・生育調査、つぼ刈り
環境DNAによる生物多様性調査



天然わかめ調査

2023年3月30日

生育エリア： 21.03ha （昨年の14.9haより6ha増加）

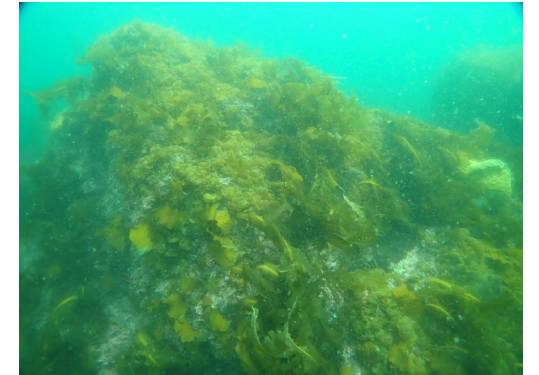
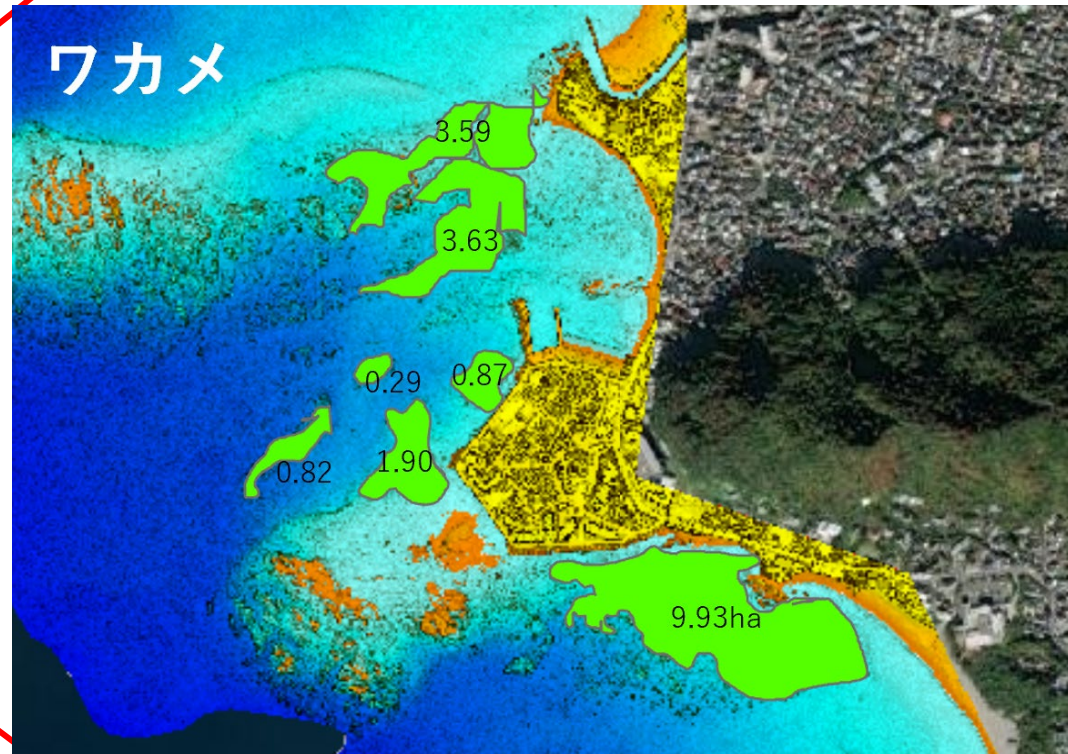
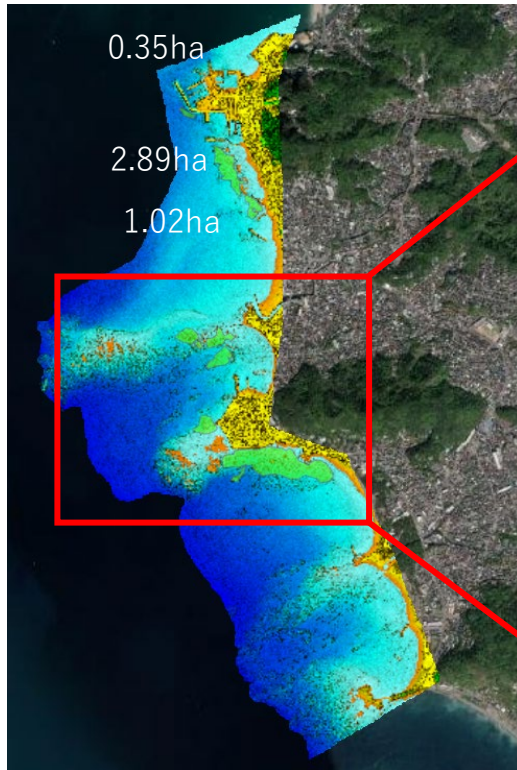
被度 40-80% （昨年より若干低下）

ツボ刈り： 12.5本/m² （昨年の平均18本/m²より低下）

9.1kg/m² （昨年12.24kgより低下）

21.03ha × 91.25t/ha = 1919.0t(総湿重量)

昨年より約100t増

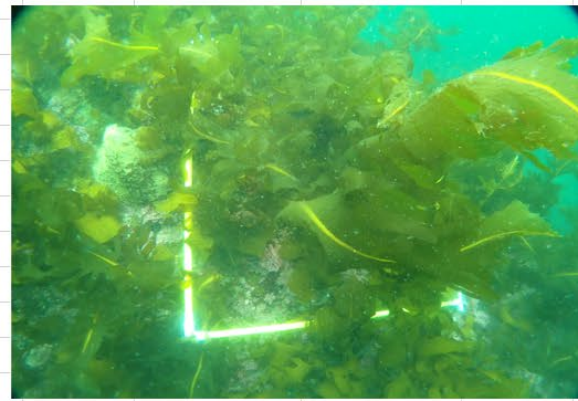




地点A



地点B



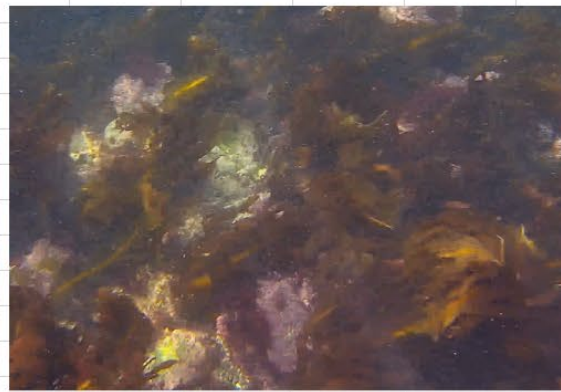
地点C



地点D



地点E



地点F



地点G



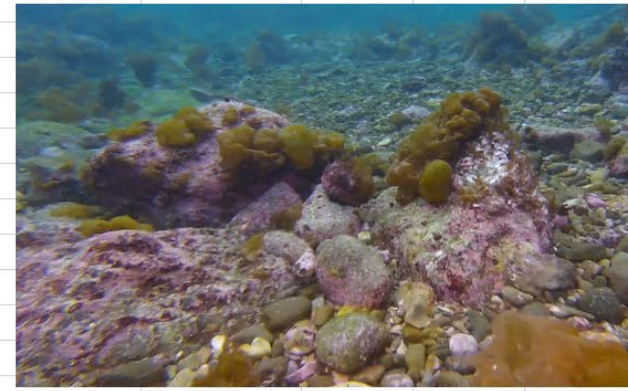
地点H



ベースライン 対照区



ベースライン 対照区



ベースライン 対照区

カジメ調査 (2022年5月2日)

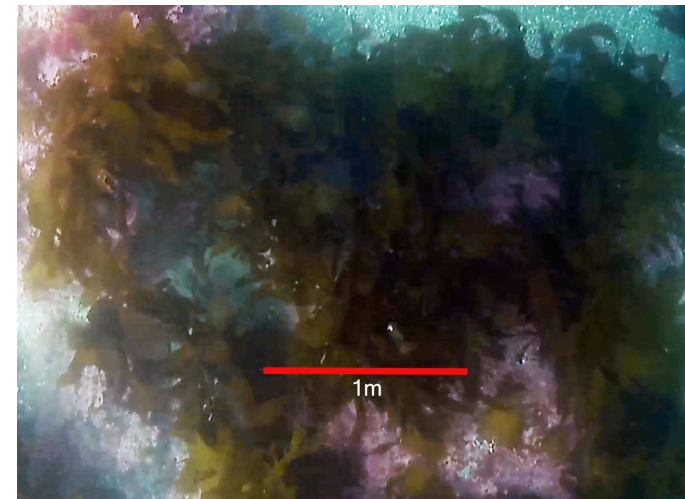
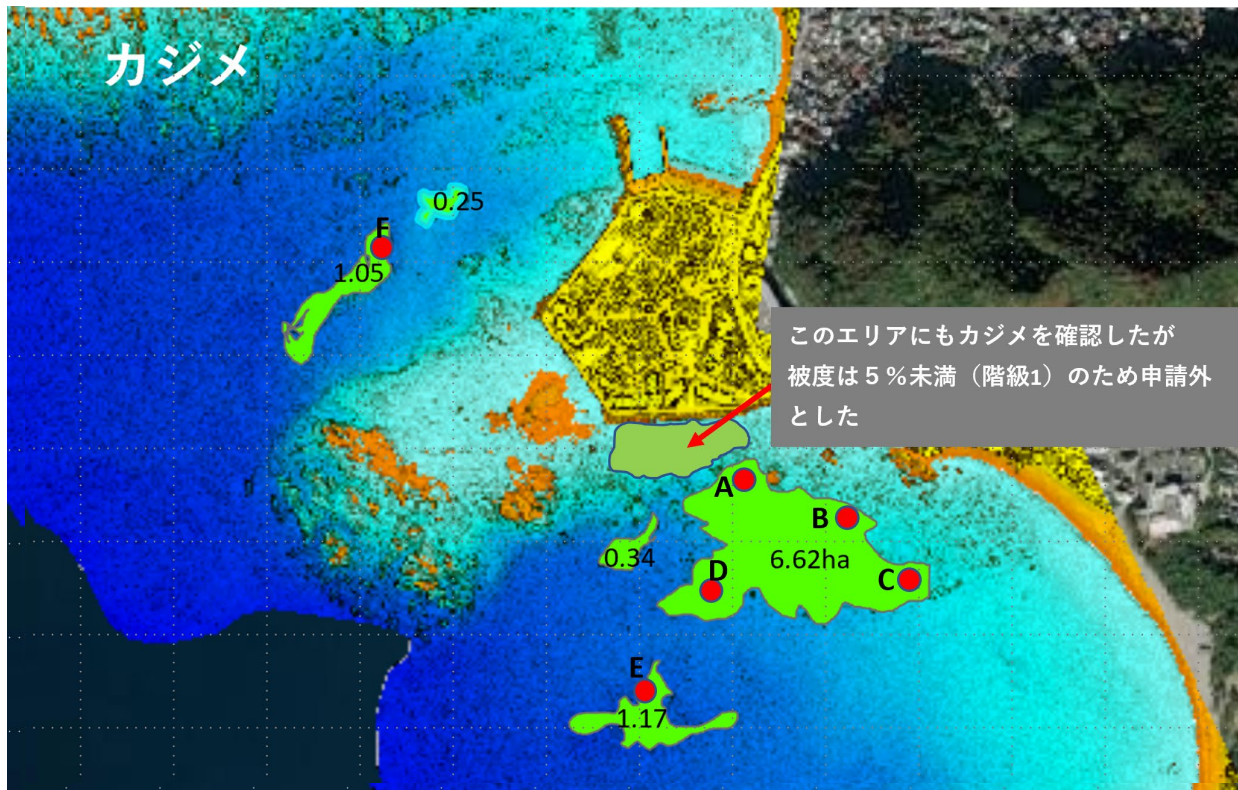
生育エリア： 9.43ha(昨年の7.3haより2.14ha増加)

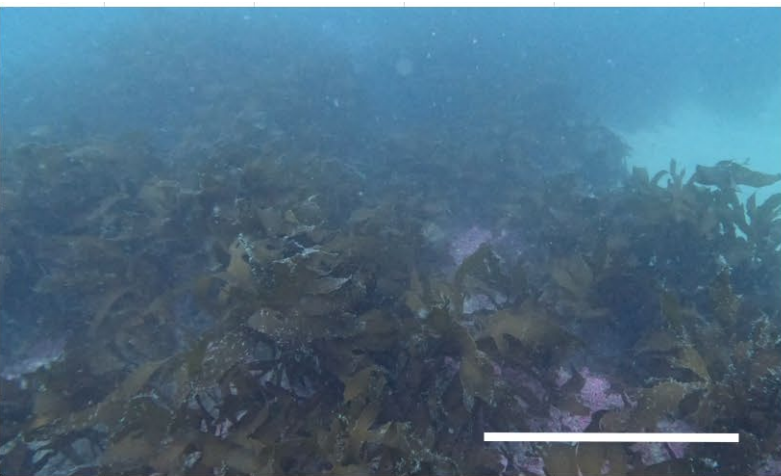
被度 平均60-80% 階級4

ツボ刈り： 平均16.8本/m² (最大24本) 昨年より増加傾向

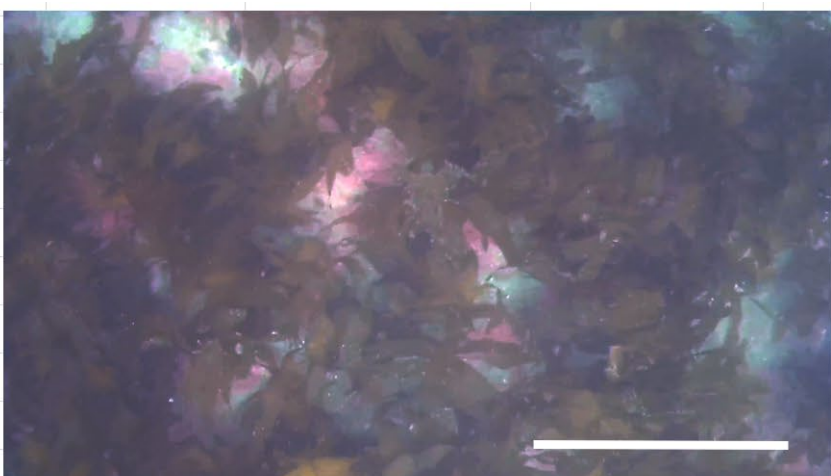
質重量平均5.69kg/m²

$9.43\text{ha} \times 56.92\text{t/ha} = 536.76\text{ t}$ (総湿重量)

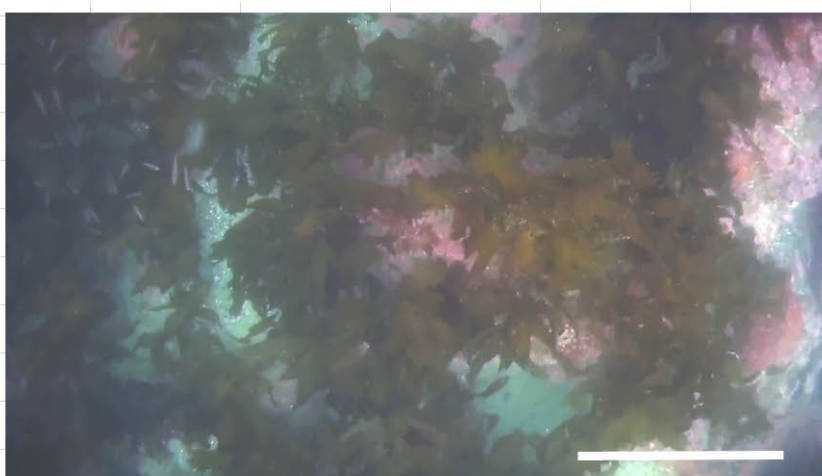




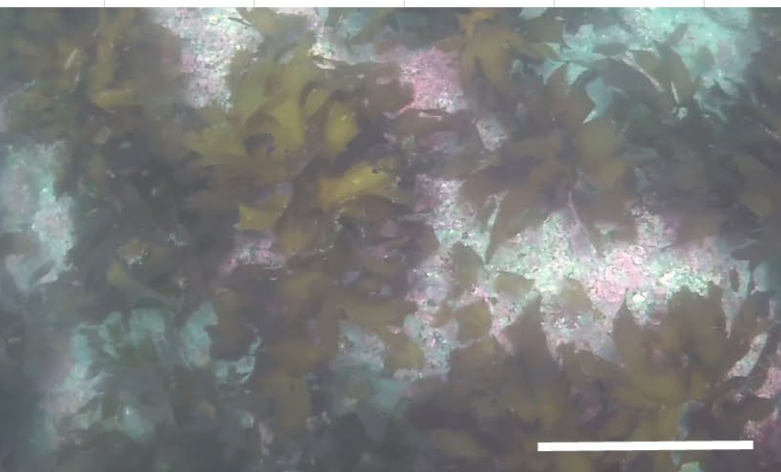
地点A



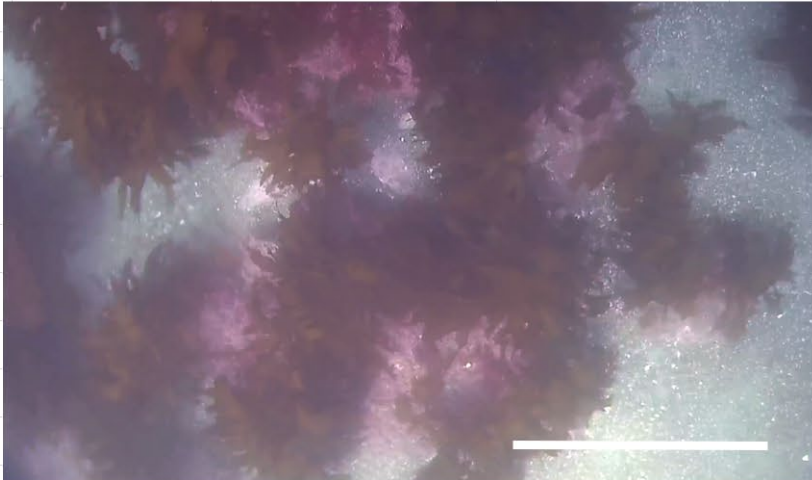
地点B



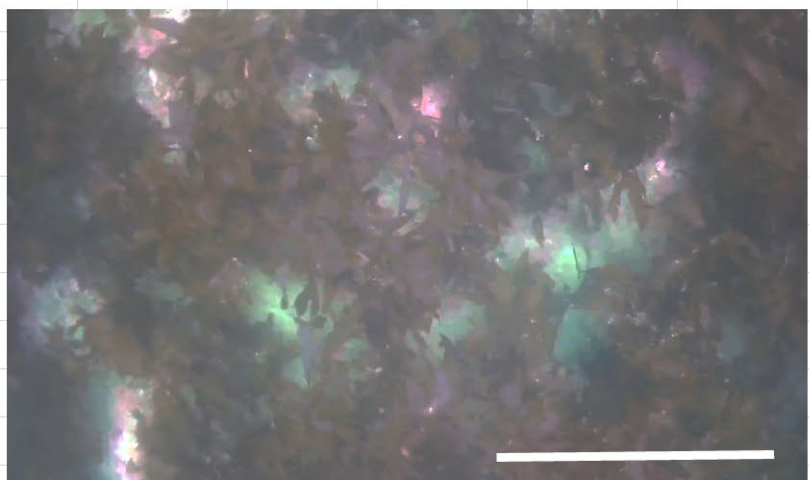
地点C



地点D



地点E



地点F

ヒジキ調査 (2022年4月6日,5月3日)

生育エリア： 0.98ha

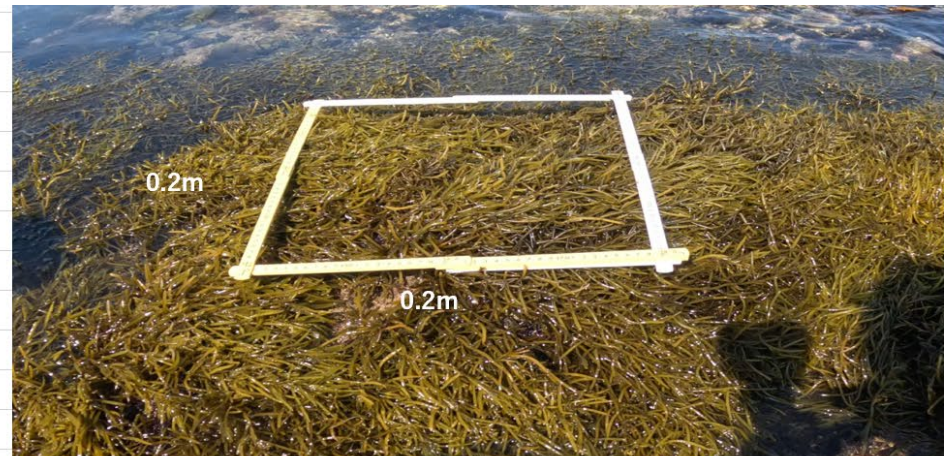
ツボ刈りによる湿重量平均 $3.83\text{kg}/\text{m}^2$

$0.98\text{ha} \times 38.3\text{t}/\text{ha} = \underline{37.53\text{ t}}$ (総湿重量)





地点A



地点B



地点C

ヒジキ保全・啓発エリア 2023年5月観測地点

持続的な採苗により、漁場として持続していると考えられる



対象区 1



対照区2

ヒジキ対照区（嘗てのヒジキ場が2020に消失、再生されない地点）



対照区 3



ブルーカーボンツアーの開催

県内外住民、子ども、企業を対象
再生藻場へのサザエ放流会を開催
今シーズンサザエは22500個を藻場に放流

藻場観察方法：

水中ドローンによる藻場観察
シュノーケル、ダイビングなど

座学：藻場の重要性、漁業の継承
ブルーカーボンによる社会循環

食イベント：葉山産魚介類のレシピ



ブルーカーボンの活用

地域の漁業文化を次世代に継承

ヒジキ漁、ワカメ漁、素潜り漁
地域の食文化を次世代に継承

